

淡路人形浄瑠璃資料館って？

淡路島の伝統芸能である淡路人形浄瑠璃の資料を展示・保管している施設です。当館は、昭和40年代半ばで活動を停止していた、淡路人形浄瑠璃の名門「市村六之丞座」の人形・道具等一式を譲り受け、平成2年に淡路人形発祥の地（江戸時代の三條村）に開館。人形浄瑠璃について学べるため、淡路人形座とセットで訪れる人もいます。簡単な解説をすることも可能です。

場 所 南あわじ市市三條 880(市立図書館三原分館2階)

開館時間 10:00～17:00

入場料 無料

休館日 水曜日、祝日の翌平日、年末年始

※8月18日(月・祝)は臨時休館となります

※当資料館では人形浄瑠璃の上演はありません。公演をご覧になりたい人は「淡路人形座」(☎52-0260)までお問合せください



市ホームページ

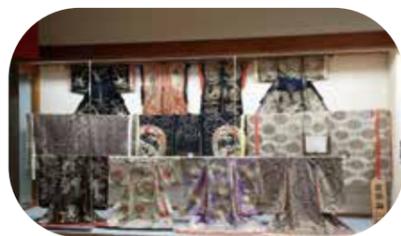


淡路人形浄瑠璃資料館 ～500年の伝統がここに～

淡路人形浄瑠璃資料館は、令和7年8月1日に開館35周年を迎えました。今年は南あわじ市の市制20周年の年でもあり、それらを記念して「昭和の人形浄瑠璃をみる！タイムスリップ写真展」を開催しています。当館では、その歴史と美しさをお楽しみいただけます。ぜひ、この機会に南あわじ市が誇る伝統文化、淡路人形浄瑠璃の魅力にふれてみませんか。

開館35周年記念 「昭和の人形浄瑠璃をみる！ タイムスリップ写真展」

9/15(月)まで
開催中
無料



絵本太功記

展示内容

宗虎亮さんが撮影した写真を中心に昭和半ばに撮影された白黒写真を公開しています。写真に関連して、実際使われていた小道具や肩衣、行季、浄瑠璃本を展示しています。淡路島でどんな風に人形浄瑠璃が根付き、楽しまれていたかがよくわかる解説付きです。録音された浄瑠璃の音声を聴くながら本写真展をご覧ください。入口は野水正朔さんの野掛け小屋写真を元に再現しています。



楽屋にある忠臣蔵の人形に興味津々の子どもたち



人形つかいから見た景色
遠くまで観客がぎっしり



絵看板(左右)と金看板(中央)のレプリカを作成し、当時の入口を再現



あくびをする男の子
芝居は朝から夜遅くまで続きます



豊澤町太郎師匠(右)
師匠の三味線の音源を流しています



「生写朝顔日記四段目宿屋の段」
阿万出身の春子太夫の浄瑠璃が聴けます

今回の開館35周年記念展を企画した淡路人形浄瑠璃資料館職員の武岡温子さんに、記念展や淡路人形浄瑠璃への思いについて、お話を伺いました。



当館は開館35周年になりますので、これまでにない展示を行いたいと考えました。人形浄瑠璃について難しいイメージを持っている人もいかもしれませんが、気軽にお越しいただければと思います。

最近、淡路人形座の若手座員がSNSを通じて魅力を発信したり、さまざまな活動に取り組んだりしています。人形浄瑠璃は淡路島の人にとっては身近な存在で見過ごされているかもしれません。

当館や淡路人形座にぜひ一度お越しいただくことで、伝統芸能を感じていただければ幸いです。

8月4日(月)から、上記のインタビューを含む記念展のお知らせ番組をさんさんネットで放送予定です。ぜひご覧ください。

淡路人形浄瑠璃資料館では、下記の展示も行っています。

- ◆淡路人形浄瑠璃名場面
「仮名手本忠臣蔵一カ茶屋場の段」
- ◆子どもたちの淡路人形浄瑠璃絵画展
期間 10月13日(月・祝)まで